Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-11

Extraction and Classification of Difficulties Faced by Patients with Brain Injury Living at Home While Using Everyday Technology

Nakata, Osamu

(Degree)
博士（保健学）

(Date of Degree)
2017-03-25

(Date of Publication)
2018-03-01

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲第6897号

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1006897

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（様式３）

論文内容の要旨

専攻領域　リハビリテーション科学

専攻分野　運動機能障害

氏　　名　中田　修

論文題目

Extraction and Classification of Difficulties Faced by Patients with Brain Injury Living at Home While Using Everyday Technology

（在宅生活をおくる脳損傷者が日常生活機器使用時に直面する困難さの抽出と分類）

論文内容の要旨

日々の暮らしにおいて日常生活機器（Everyday Technology，以下 ET）はごくありふれたものであり，それらのおかげで我々の生活は便利になったが，ほとんどの ET は障害のない人を対象に制作されている（Scherer M 1996, Lange ML et al 2002）．今回我々は，在宅生活を営む脳損傷者 25 名（以下 ABI 群）を対象に ET の使用状況と使用の際の困難さを，対照群 25 名（以下 Control 群）との比較を通して検討した．本研究は，在宅生活をおくる脳損傷者が様々な ET 使用に有する困難さの特徴を明らかにすることを目的としている．居宅にて本人から ET の使用時の困難さを Everyday Technology Use Questionnaire 日本版（以下 ETUQ-Japan）を使って調査した．原著版 ETUQ は高齢者の在宅生活での ET 使用の困難さを調査するために開発された評価ツールである（Rosenberg L et al 2009）．得られた ET 使用時の困難さを「絶えざる比較法（constant comparative method）」に従い質的に検討し、分類表を作成した。ABI 群の ET 使用時の困難さはその類似性に基づいて４９の第一カテゴリーに分けられた。さらに４９の第一カテゴリーは原因となっている認知機能障害に基づいて９の第二カテゴリーに分類された．Control 群に対しても同様に検討し，２０の第一カテゴリーと７の第二カテゴリーを得た．得られた Control 群のカテゴリーはすべて ABI 群のそれに含まれていた．カテゴリーA「忘れる」は記憶障害と関連しており，ABI 群に特有の第一カテゴリーが多くみられた．記憶障害は脳損傷者に最もよく見られる障害の１つであり（Evans JJ 2006），日常生活にさまざまな影響を及ぼすとされる（Sohlberg MM et al 2001）．この分類表では展望記憶や手続き記憶の問題と考えられる困難さは ABI 群に特有であった．カテゴリーH「判断を誤る」には多くの第一カテゴリーが含まれており，それらのほとんどは ABI 群に特有であった．脳損傷者の日常生活の改善に取り組む場合，このカテゴリーに含まれる困難さに注目することは重要である．注意障害と Action slip に関連したカテゴリーの大部分は両群で共通していた．このことは障害のあるなしにかかわらず日常生活で ET 使用時に注意機能に関連した困難さや Action slip が起こることを示している．この分類表を用いることで脳損傷者の ET 使用時の困難さを脳機能障害と結びつけることが可能となり，介入を行うにあたり既存のストラテジーを選択する際の１つの指針となる可能性がある。

指導教員氏名：種村留美

（別紙１）

論文審査の結果の要旨

氏　名	中田　修		
論文題目	Extraction and Classification of Difficulties Faced by Patients with Brain Injury Living at Home While Using Everyday Technology （在宅生活をおくる脳損傷者が日常生活機器使用時に直面する困難さの抽出と分類）		
審査委員	区　分	職　名	氏　名
	主　査	教　授	種村　留美
	副　査	教　授	安藤　啓司
	副　査	準教授	野田　和恵
	副　査		印

要　旨

本研究は、在宅生活を営む脳損傷者 25 名（ABI 群）の日常生活機器（Everyday Technology，ET）の使用状況困難さを，Everyday Technology Use Questionnaire 日本版（日本版は神戸大学開発、ETUQ-Japan）を用い、対照群 25 名との比較を通して、その特徴を明らかにすることを目的としている．

得られた ET 使用時の困難さを質的研究手法の constant comparative method に従い検討し分類表を作成している。結果は、第１カテゴリー49 種は高次脳機能障害者の日常生活での具体的な問題を現しており、第２カテゴリー9 種は認知機能障害に起因する問題であると考えられた。この分類表では展望記憶や手続き記憶の問題と考えられる困難さは ABI 群に特有であった．カテゴリーH「判断を誤る」には多くの第一カテゴリーが含まれており，ほとんどは ABI 群に特有であった．脳損傷者の日常生活の改善に取り組む場合，このカテゴリーに含まれる困難さに注目することは重要である． この分類表を用いることで脳損傷者の ET 使用時の困難さを脳機能障害と結びつけることが可能となり，介入を行うにあたり既存のストラテジーを選択する際の１つの指針となる可能性がある。このように、ET の観点から、高次脳機能障害者の日常生活を詳細に分析した論文はほかに見当たらない。

よって、中田修氏は、博士(保健学)の学位を得る資格があると認める。

掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年

Extraction and Classification of Difficulties Faced by Patients with Brain Injury Living at Home While Using Everyday Technology, Nakata Osamu, Rumi Tanemura, Toru Nagao, Kazue Noda, Bulletin of Health Science Kobe,Vo.32,55-67、2017